資料4

（４）流域治水の自分事化計画について

流域治水の自分事化

水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす　～総力戦の流域治水をめざして～

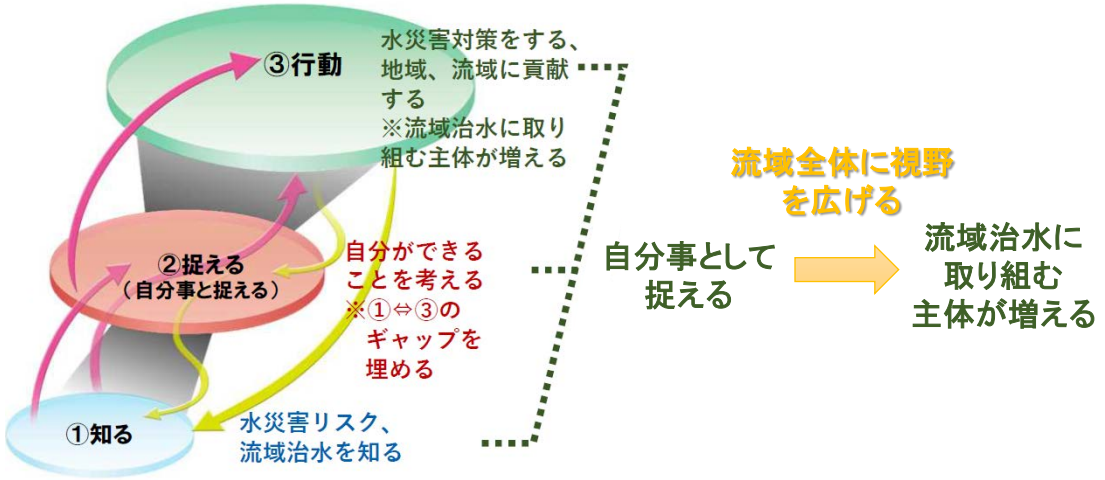
背景

- 気候変動により激甚化・頻発化する水災害に対して、流域に関わる**あらゆる関係者が協働**して取り組む「流域治水」を推進。
- 「流域治水プロジェクト」には行政が主体の取り組みを中心にとりまとめているが、流域治水の実効性を高めるためには、**取り組みの主体を住民や企業に広げ、総力戦で流域治水に取り組む**ことが重要。

取り組み主体を増やすための課題

- 流域治水に取り組む主体を増やすためには、住民や企業が**水災害リスクを知り、流域治水を自分事として捉える**ことが課題である。（下図参照）
- 国土交通省では「**水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会**」を設置し、流域治水の自分事化に向けた普及施策を検討。
  〈URL（検討会HP）〉 https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/suigairisk2/index.html
- 太田川、小瀬川においても、流域治水の自分事化に向けた取り組みを継続的に実施するため、具体的な取組内容や取組予定を定めた**取組計画**、**ロードマップ**を策定。

流域治水に取り組む主体を増やすためのステップ



流域治水のイメージ

流域に関わるあらゆる関係者（行政・住民・企業）が協働

<太田川、小瀬川における流域治水の自分事化に向けた取り組み>

「①知る」に繋がる取り組み	流域治水の広報 連携活動
「②捉える」に繋がる取り組み	リスク情報等の提供 教育活動 訓練活動
「③行動」に繋がる取り組み	計画策定 水災害対策の支援 水防活動の支援

これらの取り組みを取組計画、ロードマップへ位置付けを行い、定期的にフォローアップを実施

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure and Transport

小瀬川流域治水協議会

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

○流域市町村の小学校から社会科見学等の機会を利用してダム・砂防堰堤等の役割や効果、必要性を説明
○警察、消防、メディア等の他機関と連携し防災イベントを実施（4回）

教育活動

○自主防災組織等からの依頼による防災講話や、県との連携による研修会等
○小中学校への防災教育、マイ・タイムラインを活用した出前講座等の開催

訓練活動

○住民参加型の避難訓練を実施（2回）
○ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組
○多機関連携タイムラインの検討会を実施（3回）

水防活動の支援

○非常時における相互支援方法等の確認（1回）

水災害対策の支援

○自主防災組織に対して補助金を交付し、防災意識の向上と育成強化

流域治水の広報

○PR動画の屋外広報（TV、インターネット活用）

リスク情報等の提供

○浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表
○洪水・土砂災害ハザードマップの更新・配布
○気象・防災情報の提供

○水位計・監視カメラの設置、増設（2箇所）
○緊急速報メールやLアラート等を活用して市民へ情報提供

計画策定

○要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援
○個別避難計画の作成促進と避難の実効性の確保
○民間企業におけるBCP作成支援

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

令和6年度：自分事化に向けた取組のロードマップ

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure and Transport

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①知る機会を増やす	◎連携活動 ｜地域｜個人｜	小学校の社会科見学等の機会を利用しダム・砂防堰堤等の役割等を説明 ●	●	●	警察、消防、メディア等の他機関と連携し防災イベントを実施
	◎流域治水の広報 ｜地域｜個人｜企業・団体｜	PR動画の屋外広報			
②自分事と捉えることを促す	◎教育活動 ｜地域｜個人｜	防災講話、研修会			
		小中学校における防災教育、出前授業			
	◎リスク情報等の提供 ｜地域｜個人｜企業・団体｜	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップの更新、配布等			
		気象・防災情報の提供、市民へ情報提供			
		水位計・監視カメラの設置、増設			
	◎訓練活動 ｜地域｜個人｜企業・団体｜	●		●	住民参加型の避難訓練
		ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進			
		● 多機関連携タイムラインの検討会を実施		●	●
③行動を誘発する	◎水防活動の支援 ｜地域｜個人｜企業・団体｜	非常時における相互支援方法等の確認			
	◎水災害対策の支援 ｜地域｜	自主防災組織に対して補助金の交付し、防災意識の向上と育成強化			
	◎計画策定 ｜地域｜個人｜企業・団体｜	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援			
		個別避難計画の作成促進と避難の実効性の確保			
		民間企業におけるBCP作成支援			

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure and Transport

小瀬川水系流域治水協議会

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

○警察、消防、メディア等の他機関と連携し防災イベントを実施（5回）

流域治水の広報

○流域治水大使の任命
○流域治水実況中継PR動画の作成
○流域治水ポスター及びパンフレット作成

教育活動

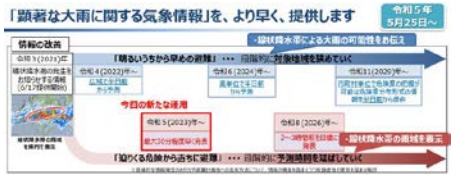
○小中学校等への防災教育、マイ・タイムラインを活用した出前講座等の実施（28回）

○自主防災組織等からの依頼による防災講話、県との連携による研修会等の実施（49回）

リスク情報等の提供

○浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の作成・周知
○洪水・土砂災害ハザードマップの配布

○気象・防災情報の提供



計画策定

○要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援
○民間企業におけるBCP作成支援

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える